

製品サイクルを効率管理するPLM

資源高騰やグローバルな企業間競争の激化により、日本のものづくりは大きな変革を迫られている。

多様な市場ニーズを素早く製品・サービスなどの「プロダクト」に反映し、タイムリーに市場に投入することが求められるなか、製品の企画から設計、生産、販売、保守、廃棄に至る製品サイクル全体を効率的に管理する「PLM(製品ライフサイクル管理)」が注目されている。先ごろ開催された日経産業新聞フォーラム「知的設計現場の「可視化」を推進。現場力を高めるPLMソリューション」(名古屋市東区、中電ホール)では、PLMの可能性、導入に際しての留意点の指摘など、幅広い観点から興味深い講演が行われた。

SIEMENS

日本の製造業は、大きな転換点にある。十年も二十年もかけて開発してきた技術や製品が、瞬く間に世界中に普及し、低価格化し、自社の利益に繋がらないという事態に直面している。そこで必要になるのは、経営者の価値観・マインドの転換である。例えば「良いものを安く売る」は、日本の経営者が自らPRで誇りを掲げるべきである。PLMも同様だ。PLMで見える化を行うところまでが良い。しかし見える化の結果、製造コスト



シエンスPLMソフトウェア日本法人代表取締役社長 三澤一文氏

PLMとは? 製品の企画から廃棄まですべてのプロセスを最適化

PLMは、プロダクト・ライフサイクル・マネジメントの頭文字で「製品ライフサイクル管理」などと訳される。製品開発の企画段階から設計、生産、さらには出荷後のユーザーサポートや廃棄まで、製品にかかわる全プロセスを、デジタル情報を軸として統合管理、全体最適化を達成するためのソフトウェアやサービスを指す。

競争の激化で商品としての寿命が短命化する半面、市場のニーズが拡散しヒット商品が生まれにくい構図が続く。こうした状況下では、「市場が求める製品を」「リーズナブルな価格で」提供できればメーカーは競争優位を保持できる。従来なら動やアナログ的な情報処理に頼っていたこの3点についての意思決定をデジタル情報で支援するPLMソリューションを提供するベンダーも現れ、PLMは急速に進化している。市場環境に即応する経営戦略を実現する高度なソリューションとして注目度が高く、導入企業も急ピッチで増加している。

JUST SYSTEMS



ジャストシステム ビジネス企画グループ部長 細井智氏

製造業の設計者は、一日の業務の大半を技術情報の検索に費やしている。技術情報は紙や個別のファイルで管理されている。設計関連文書やマニュアル文書などが多く存在し、検索や自社の類似文書からの活用設計が自在にできない。これを構造化情報としてデータベース化する。工程プロセス間の文書の連携や部門内の関連文書の可視化が容易になる。xrayの「技術帳票作成管理」で工程間の文書連携

情報一元化で効率アップ

製品の企画から設計、生産、さらには出荷後のユーザーサポートや廃棄まで、製品にかかわる全プロセスを、デジタル情報を軸として統合管理、全体最適化を達成するためのソフトウェアやサービスを指す。競争の激化で商品としての寿命が短命化する半面、市場のニーズが拡散しヒット商品が生まれにくい構図が続く。こうした状況下では、「市場が求める製品を」「リーズナブルな価格で」提供できればメーカーは競争優位を保持できる。従来なら動やアナログ的な情報処理に頼っていたこの3点についての意思決定をデジタル情報で支援するPLMソリューションを提供するベンダーも現れ、PLMは急速に進化している。市場環境に即応する経営戦略を実現する高度なソリューションとして注目度が高く、導入企業も急ピッチで増加している。

セッション1

R&D&E「管理が重要」 QCD、イノベーション力向上

過去の優良企業とされた会社が消えていく理由を探ると、経済環境の大きな変化や法規制などの外的要因が約二割、残りの八割は企業戦略の失敗、あるいは環境変化に対応できる組織体制作りの失敗が占めているとされる。

QCDの低下や人材不足を助長している。こうした課題を解決していくために重要な点は、PLMの実践であり、その支援のためのPLMソフトを活用することによって、R&D&E(エンジニアリング)マネジメントの仕組みを作り上げることだ。

もう一つのカテゴリは、製品設計情報を生産プロセスや協力ベンダー、サプライヤーと連携・共有するための「CPD」分野。これはコラボレーションを意味し、設計・開発、生産の現場、協力企業との間で情報共有をベースに効率的にマネジメントするための製品群だ。もう一つが「DM」(デジタル・マニファクチャリング)分野で、生産・流通関係のさまざまな工場やサプライヤーを繋ぐプラットフォームである。このような各カテゴリの製品群は、製品開発の現場と生産現場を情報管理という視点で一体化するのが大きな特徴といえる。

現場力高め付加価値創造を図る



イワノベリサーチセンター教授 延岡健太郎氏

PLMも同様だ。PLMで見える化を行うところまでが良い。しかし見える化の結果、製造コスト

PLMも同様だ。PLMで見える化を行うところまでが良い。しかし見える化の結果、製造コスト

価値の創造と獲得を主眼に

価値の創造と獲得を主眼に。現場力高め付加価値創造を図る。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。現場力を高めるPLMソリューション。

セッション3



ジャストシステム xrayソリューション戦略室室長 佐藤昌宏氏

構造化文書で情報活用

構造化文書で情報活用。構造化文書で情報活用。構造化文書で情報活用。構造化文書で情報活用。構造化文書で情報活用。

PTC



PTC ジャパン ビジネス開発推進室ディレクター 後藤智氏

データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。

データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。

データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。

データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。データの目的要素を統一。グローバルな設計基盤構築。

広告 企画・制作=日本経済新聞社広告局